



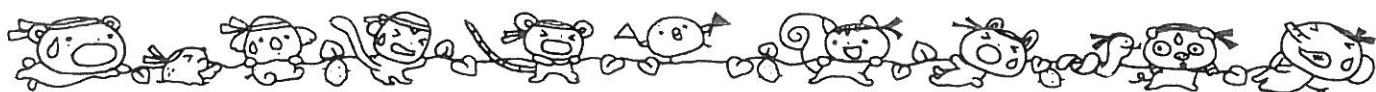
9月ののびすく主催の『えほんがくい』に参加した絵本好きのママ6人組で

『えほんの木』をつくりました。

今回は、「うちの子供が好きな絵本」を紹介しています。

これからも親子で楽しめる絵本、季節を楽しむ絵本など、いろいろなテーマで紹介していきます。

つみきの森の窓のところに、えほんの木の掲示があります。ご覧下さいね。



『コップちゃん』 ぶん・中川ひろたか えい 100%ORANGE
ブロンズ新社

11ヶ月の女の子と
小学校1年生の
男の子の母のつみき
(T.Y.)

初めての絵本は、慣れるまで少々時間のかかる娘(11ヶ月)でも、この本と同じ作者による絵本「スプーンマン」も、のびすくで初めてよみまかせしていただいたときに、最初から最後まであきらめず集中していました。

「じゃあ、こっちはどうかな？」と「コップちゃん」を図書館で借りてよんでみると……更なるくいつまぶり!! どんどんじぶんページをめくろうとしちゃいます。

黒い線と、あずかな色で描かれたコップちゃん。シンプルな文と絵。

「コップちゃん、こんにちわ」「コップちゃんおなまえは?」「コップちゃんいくつ?」——小さい子が、いつも話しかけられていそうなことは、リズムよくつづきます。このシンプルさが、きっといいんです。

娘がとくにお気に入りなのは……

トクトクトクとジュースが注がれたコップちゃんと、おとこだの「カンパニー!」とあるページと、その次のページで男の子と女の子がそれぞれコップをもってジュースを「ごくごくあーあーおいしい」と飲んでいるページ。何度読んでも、娘は真先にこのページをひらくようになります。

初めてよんだとき、「ごくごく……」の絵を見た娘は、手もコップを持つような仕草で自分の口にませて、「のんぞるね!」と言いたげに「ん!ん!」とアペールしてました。こんな笑いは、初めてだったのだからとびっくり。娘の成長を感じた1冊になり手した時。

そうそう、この絵本は、裏表紙の絵もとっても可愛いです。表紙では1人だったコップちゃんも、お友達のコップちゃんと重なって、あーと得意げ。この絵で、コップちゃんの成長を感じるのは……娘を動物に見てもいいから……」

自己紹介

ゆうとママ: 1歳の男の子のママ
育児休業中。
保育士してます。

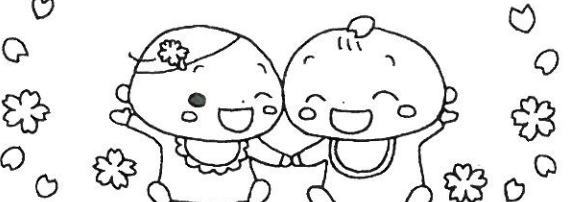
*絵本が大好きで、小さい頃の夢は、童話作家でした。

いないいないばあ

童心社

松谷みよこ さく 瀬川 康男 え

「いないいないばあ。」誰もが聞いた事がある、言った事がある、このフレーズ。5ヶ月の頃息子は、絵本の中の「ばあ。」の所で、最高の微笑みを見せてくれました。必ず出会ってほしい、読んであげてほしい絵本。お勧めですよ!!



ズズズ 1冊になる ゆたかのお気に入りには……

『おおきい かめ
ちいさい かめ』 (福音館書店
こどものとも 012)
山田 ゆみ子 作。 (2008年7月号)

池に 大きい2匹のかめを 放流した時の
様子を 描いた作品。

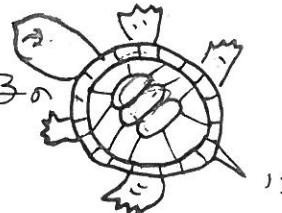
気持ち良そうに 泳ぐ様子は、かめ好きの
ゆたかママをも うならせませす。

2匹のかめが「ごっつん」とぶつかるシーンが
息子のツボ。声をあげて 笑います。

表紙も 中も、全てのページが 分厚い紙なのも、
どんどんページをめくったがる 息子には

うれしいですね。

「こどものとも012」は
絵本 初心者の 私達親子の
お気に入りシリーズです。



「いないいないばあ」 文 松谷みよ子 童心社
画 瀬川康男

1 初版なんと1967年。
赤らん絵本定番中の定番。

「いないいないばあ」

2 大人の私の目から見ると
ずいぶん絵がかわいい
わけなし
話がおもしろいわけなし

なんか「キニシキ」系
内容ほぼ
「いないいない
ばあ」だけ

3 しかし、絵本にぜんぜん
反応のなかった0歳の娘が
最初に食いついたのが
この本でした。
それから3ヶ月、とにかく
この本だけが 大のお気に入り
だった。

おあつ

4 定番と呼ばれる
ものには
定番になるだけの
理由がある。

初めての1冊に迷ったら
オススメです。

だるまさん (と)

作者 ががくひろし
出版社 ブロンズ新社

〈感想〉
絵本素人だった私と、1冊の息子が
すぐにハマりました!!
なんとい、でも、絵がおもしろくて、いつも
息子は、声を出して 笑っています。
次は、(か)め(の)を買ってあげたいです。

〈読者プロフィール〉
・ 発行日 1才2ヶ月
・ 発着箇所 7才・発着箇所 4才
毎日 うちのママに読ませます、干支ひなママ
3才です!

はじめまして。小学3年の女の子と1年の男の子、
2歳の女の子の母です。

毎日の子育てを絵本に助けられています。
子供を怒りすぎた時も、絵本をゆっくり
めくれば、お互いに穏やかな気持ちになれます。
ああ、この世に絵本があって良かった!と
今日もつくづく寝顔を眺めるのです。

上の子二人はもちろんもう自分で本を読みますが、
2歳のちびに絵本を読んでいるとほとんど必ず
体をくっつけてきます。そして、最後の一文を満足
そうに聞きおわると、今度はちびに代わる代わる読
んで、楽しんでいきます。

そんな我が家のオススメは、
酒井駒子作 『よるくま』。(偕成社)

ママあのおね きのうのよるね、うんとよなかに
かわいいにがきたんだよ。

と始まる温かいストーリーは、
夜の空気が澄んできたこの季節にぴったり。
眠りにおちていく子供たちに寄り添ってくれるよう
な素敵な絵本です。
冬になったら、『よるくま クリスマスのまえのよる』
もぜひ。 はらだ